

地域の経済動向（令和3年10～12月期） 《オホーツク地域》

1 経済動向に係る企業等の声（10～12月期）

【建設業】

- ・働き方改革による労働時間の減少により、生産性が著しく低下し、慢性的な人手不足と経費の増幅が経営に影響を与えている。建設業でもDXが推進されているが、現時点では生産性の向上に向けた模索の段階であり、業界的に業績悪化の傾向が予想される。（土木工事業（舗装工事業を除く））
- ・木材に限らず、工事資材全般について価格が上昇している。また、原油高を背景として、軽油価格も上がっており、燃料費がかさみ影響が大きい。（建設業）

【製造業】

- ・人材確保が困難。設備資金の助成金についての情報発信を積極的にお願いしたい。（看板・標識機製造業）
- ・原料の水産物が全般に高くなっているため、当社の商品も値上げを考えている。（水産加工業）
- ・人材確保は苦戦している。派遣を導入し人件費増になっている。（製造業）
- ・外国人技能実習生の受け入れが思うように進んでいないこともあり、夜勤帯の人員に不足が生じている。（食料品製造業）
- ・ふるさと納税の返礼品納入が好調。昨年から開始したが、今年は昨年超え。残業・休日出勤をしても年内に製造・発送しきれないくらい注文が入っている。（水産加工業）
- ・量販店や通販向け商品は、巣ごもり需要の影響で販売数量が増加していたが、今年12月に入り、巣ごもり需要が減少したため、当該売上も減少。（水産加工業）

【卸売・小売業】

- ・町の人口が減少しており、コロナの影響で売上も減少したが、従業員も減少した。経済が回復したとしても、現状の体制で今まで通り生産性を維持することは難しい。（野菜・青果卸売業）
- ・人材の確保が課題。特に営業職の若手人材が不足している。（産業機械器具卸売業）
- ・例年9～10月に展示会を行い、年間の売上を作っているが、展示会を行えないため売上が大きく減少。（小売業）
- ・昨年は鮮魚・青果などの食品の需要が、スーパー向け販売を除き減少したが、足下では需要は回復傾向にある一方、スーパー向け販売は昨年と比べると弱含み。（卸売業）

【運輸業】

- ・弊社は、大型ミルクローリーによる生乳の集荷配送を主な業務としているが、地方都市では大型免許取得者の絶対数が少なく、運転手は常に不足している状況で、従業員の高齢化も進んでいる。弊社経営陣が創意工夫し、安定した魅力ある職場となるよう努力することが最も重要なことと認識しているが、行政には中小企業を生かすべく、人材確保のための有効な施策や助成制度等を期待している。（一般貨物自動車運送業）




【サービス業】

- ・雇用調整助成金の活用で何とか雇用を維持しているが、制度が無くなると維持していけるかわからない状況。平常時に戻った時にスタートダッシュをするためにも雇用の維持は非常に重要なので、雇用調整助成金の制度延長を強く希望する。（旅館、ホテル）
- ・G o T oの早期再開を望む。（日本料理店）
- ・原料は海外からの輸入のため、コンテナ不足や物流の停滞で入荷が遅くなっている。この状況はしばらく続く見込み。（飲食業）

【関係機関・団体】

- ・木工・鉄工業界ともにコロナによる材料・部品不足の影響が出ている。

































2 道内金融機関から見た地域景況感 (10~12月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

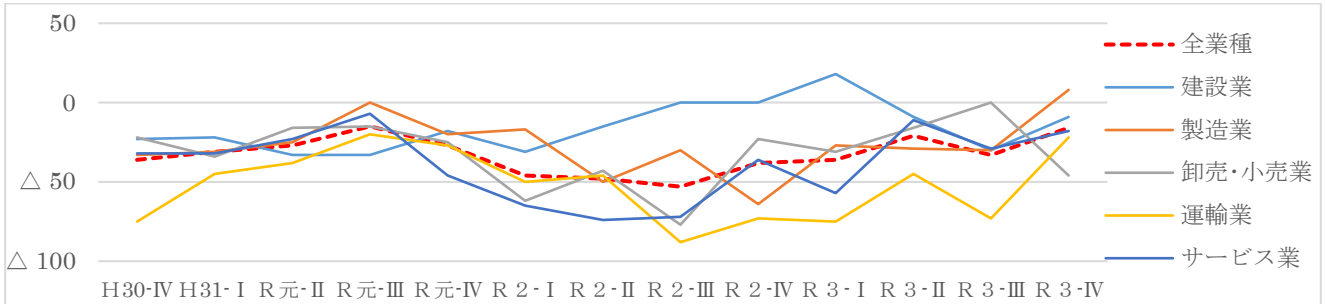
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
網走信用金庫				当金庫で行った業況調査の結果、製造業・建設業で前回調査に比べ、業況判断 DI 値が大幅に改善しており、生産動向を「普通」と判断した。サービス業の DI 値が改善した一方、卸売・小売業は前回同様に大きくマイナスであり、消費動向を「低調」とし、総合的な景況観を「やや低調」と判断した。		全業種において、3か月後の業況見通しについて「悪化」とする回答が多いため、次期の景況見通しは「下降傾向」と判断した。
遠軽信用金庫				生産動向の景況感については、前年同期と比較すると、製造業については収益が増加しているものの、その他業種については、厳しい状況が続いていることから、「やや低調」(前回調査時: やや低調)と判断した。 消費動向の景況感については、前回調査時と比べ、業況判断 DI 値が改善傾向にあるものの、依然として厳しい状況にあることから、「やや低調」(前回調査時: やや低調)と判断した。 前回調査時(7-9月期)と比べ、業況判断 DI 値が改善しているものの、どの業種も依然として業況は厳しい状況にあることから、総合的な景況感、前回調査時同様の「やや低調」と判断した。		次期の景況見通しについては、新型コロナウイルス変異株等の影響により、感染収束の見通しが立たず、多くの企業が先行き不透明で、厳しく予想しており、今後の業況回復には時間を要すると考えられることから、次期の景況見通しは、「下降傾向」と判断した。
北見信用金庫 (北見地区)				当金庫の景況動向調査によると、前年同期と比較した売上 DI は△23 となり、収益 DI は△26 となった。前回調査時(3か月前)から売上 DI は5ポイント、収益 DI も5ポイント改善した。しかしながら、依然として DI はともにマイナスであり、景況が悪いと捉えている企業が多く存在している。		当金庫の景況動向調査によると、今後3か月の見通しでは、売上 DI、収益 DI ともに悪化する見通しとなっている。
北見信用金庫 (紋別地区)				基幹産業である水産関連会社の最盛期であること、主力のホタテ漁が好漁であったことから好調な生産動向であるものの、依然として秋サケ漁については低調な漁模様であることから、生産動向については「やや好調」とした。 また、労働力の高齢化が進んでおり、人手不足による生産調整もあり、今後の課題となっている。消費動向については大きな変化はないことから、総合的に「普通」と判断した。		当地域の漁業関係者が閑散期に入ること、流氷シーズンによる観光客の増加が、コロナ禍により期待出来ないことから、景況見通しを「下降傾向」と判断した。

【景況感の推移】

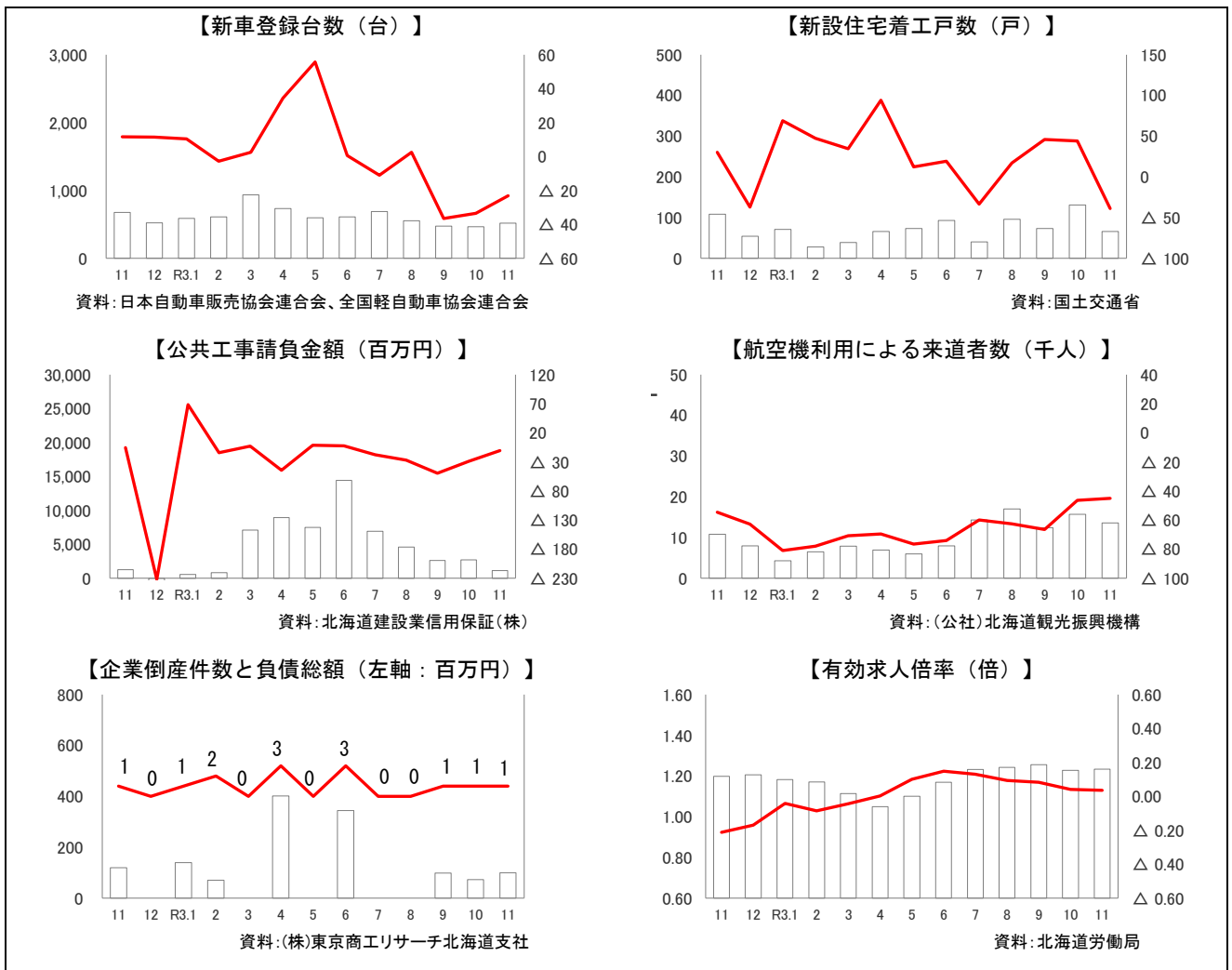
	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV
網走信用金庫								
遠軽信用金庫								
北見信用金庫 (北見地区)								
北見信用金庫 (紋別地区)								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	H30-IV	H31- I	R元- II	R元- III	R元- IV	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV
全業種	△ 36	△ 31	△ 27	△ 15	△ 27	△ 46	△ 48	△ 53	△ 38	△ 36	△ 21	△ 33	△ 16
建設業	△ 23	△ 22	△ 33	△ 33	△ 18	△ 31	△ 15	0	0	18	△ 9	△ 30	△ 9
製造業	△ 33	△ 31	△ 25	0	△ 20	△ 17	△ 50	△ 30	△ 64	△ 27	△ 29	△ 30	8
卸売・小売業	△ 22	△ 34	△ 16	△ 15	△ 25	△ 62	△ 43	△ 77	△ 23	△ 31	△ 16	0	△ 46
運輸業	△ 75	△ 45	△ 38	△ 20	△ 27	△ 50	△ 46	△ 88	△ 73	△ 75	△ 45	△ 73	△ 22
サービス業	△ 32	△ 32	△ 23	△ 7	△ 46	△ 65	△ 74	△ 72	△ 36	△ 57	△ 11	△ 29	△ 18

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)